

「未来を創造し、社会に貢献する人材の育成」

令和元年度 柳津町立会津柳津学園中学校

# 学校だより

令和2年1月17日(金)発行 第 37 号 発行責任者:高橋 弘悦

## 中学校は大人になるための学校 自己管理能力を高めよう

今年は、昨年と打って変わって雪のない冬となっています。春を思わせるような風景は、ややもすると現実の厳しさを忘れそうになります。

そんな中、3年生の受験シーズンが本格化してきました。新制度となった県立高校入試は3月ですが、私立高校の入試が来週から始まります。さらに、中学校最後の定期テストが23日からと、中学校生活の大きな山場を迎えます。季節の変わり目は体調も崩しやすいものです。3年生に限らず、早寝、早起き、朝ごはんを意識し、自己管理をしっかりと、体調をしっかりと整え学校生活を充実させて欲しいと思います。

先日の始業式には、「会津柳津学園中のその学年での最高の姿を見せて欲しい」というお話をしました。そのためにも、体調の面はもとより、しっかり自己を管理できる能力を鍛えることが大切です。

中学校の教師であり、日本の国語教育に優れた業績を残された大村はま先生は、“中学校は大人になるための学校だ、と述べています。大人と子どもの大きな違いは、法律上だけでなく、自分がしたことに責任をとれるかどうかです。そして、責任をとるためには、次の5つの力が必要です。



- 1 自分でよく考えることができること
- 2 頑張ることができること
- 3 辛抱ができること
- 4 他人に迷惑をかけないこと
- 5 自分で決断できること

中学校の3年間は、初めて壁に直面し、涙しながらそれを乗り越え逞しく伸びていく時期です。この壁を乗り越える力が、上記5つの力“自己管理能力”です。自分の人生を切り拓いていくための力を培う大切な機会ととらえ、山場を乗り越えて欲しいと思います。

## ガンバレ桃田

バドミントン世界ランキング1位の桃田選手が、マレーシアで交通事故に遭遇したというニュースが飛び込んできました。幸い大きなケガではなく、3月には試合復帰の見込みということで一安心ですが、交通事故は後から出てくる症状もあるので、今後の競技活動への影響が心配です。



桃田選手は、前回のリオオリンピックでのメダル獲得が有力視されながら、直前に不祥事が発覚し、日本中からバッシングを受けて、無期限出場停止処分となりました。加えてこの事故。競技に影響がないことを祈るばかりです。

桃田選手は、懲戒処分中、それまでの天狗のような振る舞いから一転し、地方の小さな大会の手伝いをしたり、子どもたちにバドミントンを教えるような活動を献身的に行ってきました。また、嫌いなランニングにも積極的に取り組んで、下半身の強化に努めたといいます。日本中の冷たい視線や試合に出られないつらさに耐え、地道に基礎体力の向上に努めていた日々を想像すると、今のランキング1位がとても輝いて見えます。インターネットに、復帰第一戦を報じた記事がありましたので、紹介します。

違法賭博行為で無期限の出場停止処分を受けてから、1年半ぶりに復帰した大会。桃田は27日の1回戦から硬い表情を崩さなかった。初戦はかつて同じNTT東日本に所属していた和田周。互いに手のうちを知っている相手だが、21-7、21-8とわずか27分で決着をつけた。

余裕のあるプレーぶりに見えたが、桃田の心の中は違った。

「名前をコールされたときはまだアップ中だったので気にならなかったのですが、主審から『試合だよ』と呼ばれたときになって、自分がこれから試合をするというのが現実的になり、一気に緊張してきました。今までに感じたことがないような複雑な緊張だったし、試合でも点数的には離れていましたが、本当に最後の最後まで余裕がなく、気持ちはすごくいっぱいいっぱいでした」復帰戦で優勝を飾った桃田は、その想いをこう述べた。

「決勝では上田選手もいいパフォーマンスをしたので体力的にきつかったし、精神的に折れそうになるときもあった。そんなときでもコートに立たせてもらった感謝の気持ちが自分を奮い立たせ、1球1球を返す気持ちにつながったと思う。試合が終わった瞬間は、支えてくれた会社の人たちやチームメイトたちがかけてくれた何気ない言葉の数々が頭のなかに浮かんできました。優勝がうれしいというより、コートのなかでの振る舞いや、相手への感謝の気持ちなどを見てもらえたのがうれしい」

本校が目指す、「愛され、応援される」人間とは、このような人のことをいうのだと思っています。桃田選手の回復と活躍を心から祈りたいと思います。